

弾圧

今井 静江

昭和初期、他宗教に手入れがあり不穏な空気が漂い始めた数年後、キリスト教にまで鉾先が向けられるとは誰も想像できなかった。

昭和十七年六月二十六日、日本基督教団淀橋教会早天の最中に土足で特高が踏み込み、小原十三司、神山良雄両牧師が連行された。私は特高の恐ろしさにあつた。

集会は一切禁止、解散を命ぜられた。これは全国一斉であつた。

数日後、富士見町教会の御厚意により二階の部屋が提供され、礼拝を守れたことは大きな慰めであり感謝であつた。

その後数人の牧師は獄中にて殉教した。

戦後マツカーサーの命により全員釈放されたが、先生方は迫害に関係した人々を無償で許した。キリスト教を追放しようとした日本軍部の意図は消滅したのであつた。

あれから六十余年、当時を知る人達は数少なくなってきた。いまこそ私は語り伝えてゆく使命があると思つている。